



道徳通信

教員用

NO. 19

平成28年12月22日発行
道徳教育推進委員会

佐原白楊高等学校での道徳公開授業について

平成28年12月8日に、千葉県立佐原白楊高等学校において、『特色ある道徳教育推進校』及び『心の教育キャンペーン』道徳公開授業が実施されました。

本校からは、初任の2名の先生方が参加されました。（公開フォルダーに、提供を受けた資料のPDFファイルをのせてありますので、後ほど御覧ください。）

佐原白楊高等学校の授業展開の特徴について

佐原白楊高等学校では、学年担当教員が、一つのテーマを年間指導計画に基づき、年間を通じて各クラスで実施しています。（例：『明日への扉Ⅱ』の「あるレジ打ちの女性」を学年の各クラスで授業する形）

本校では、今年度は、学年統一テーマで同一の題材を毎回実施しています。クラス間の差異がなくなるというメリットはあるものの、担任が毎回異なる題材に取り組むため、授業展開がパターン化しがちになってしまいます。また、担任が実施したいテーマがあっても実施できない状況も考えられます。

昨年度は、担任主導で、実施したい内容を展開する形をとりました。実施内容を項目ごとに分類し、未実施分野を「見える化」することで、実施状況を細かく確認する対応が必要でした。

佐原白楊高等学校の取組は、上記の2つの方法の欠点をカバーでき、年間指導計画を立てやすくするメリットがあります。

学年担当者の実施内容を決定しておけば、

- ①教材の偏りがなくなること、
- ②担任だけに負担をかけず、学年全体で取り組む体制を構築できること、
- ③授業実施者は、異なるクラスで同一教材を使って、授業を実施することによって、クラスの特性に合った工夫と教材の理解が深化すること等、数多くのメリットがあります。

本校でも、このような形態を導入することで、学年全体の意識を更に高揚させることが可能と思われます。来年度の展開の工夫として選択肢の一つとして検討したいと考えています。